



日化協、カーボンライフサイクル分析(c-LCA)手法の指針策定に着手



ニュース (2011年9月22日)

文／国際環境経済研究所

日本化学工業協会は、温室効果ガスの排出削減で化学産業の貢献度の評価指標となる「c-LCA(カーボンライフサイクル分析)手法」のガイドライン策定に着手した。同協会内に設置した LCA ワーキンググループを中心に検討を始め、2011年内にも指針をまとめる方針にしている。

c-LCA は、原料の採掘から製造・利用・廃棄までの化学製品のライフサイクルの各過程で排出される CO₂ の排出量を定量化し、化学製品の利用で削減される CO₂ 量を論理的・実証的に評価する手法の一つ。国際的な化学工業協会団体、国際化学工業協会協議会 (ICCA) が 2009 年に作成した報告書でも紹介された。

日化協は 2010 年から国内の最終製品使用での CO₂ 排出削減量の定量化に取り組んでおり、今年 7 月には、化学製品の貢献度をまとめた報告書を作成。この報告書では、再生可能エネルギー、軽量化・低燃費化、省エネルギーの3分野で、太陽電池や LED(発光ダイオード)照明、住宅用断熱材など 9 つの事例について c-LCA 評価結果を明らかにした。

日化協は今後も、製品のライフサイクル全体に着目して CO₂ の削減度を評価する c-LCA の概念の普及を目指す考え。そのためには、c-LCA 手法の信頼性の向上が不可欠なため、CO₂ 削減貢献の定義や比較対象製品・技術の選定ルール、CO₂ 排出削減貢献量の定量評価方法などのガイドラインを年内をメドにまとめる方針という。

